

**【第255号 紙面案内】**

- 第2面……………理事会報告など  
第3・4面……第58回全国研究大会参加記、工場見学記  
第5面……………第12回産学交流シンポジウム報告  
第6面……………第13回産学交流シンポジウムのご案内

年頭挨拶

**学会のビジョン**

会長 小椋 康宏

新年明けましておめでとうございます。己丑の年を迎え、会員の皆様におかれましては、益々ご清栄のこととお慶び申し上げます。

日本経営教育学会は本年6月に、創立30周年を迎えることとなります。30周年を記念して東洋大学において、第59回全国研究大会が行われ、また出版事業としては、中央経済社から第1巻『実践経営学』、第2巻『経営者論』、第3巻『経営教育論』の3巻を発刊します。また、機関誌『経営教育研究』第12巻第2号には、学会創立30周年の記念記録が掲載される予定です。

昨年、サブ・プライム・ローンに発する金融市場の混乱は、今日、多くの企業経営者にパニックともいふべき影響を与えてきました。金融のグローバル化、経営のグローバル化は新しい経営の時代を創りだしたわけですが、問題点も多く、面が生じているのが現状であります。このような環境変化のなかで、本学会は新たな経営実践論を日本はもとより世界に発信する必要があります。

現在、学会創立者である山城章先生が主張された実践経営学は経営教育の方法のなかに生かされており、経営実践学として成立しているわけです。

1979年に創立した本学会は「実・学一体の経営学」の確立を目指すビジョンをもってきました。学会創立30周年を迎えた現在、本学会の原点に立ち戻って、学会のビジョンを掲げ、前進する必要があります。このビジョンは、真の経営学の創造にあり、経営実践学の確立にあると考えております。

さて、経営実践学では、経営者教育、管理者教育のなかに「自己啓発の方法」があります。われわれ会員一人一人もまた自己啓発の方法によって、経営に関する研究課題に挑戦し、問題解決する必要があります。21世紀の社会は、不安定な社会になりつつあります。経営実践学の進展によって、この不安定な社会を安定した社会に戻す責務がわれわれにかかっているわけです。学会活動における会員相互の研究交流を通じて、新しい経営原理を創造し、この難関を乗り越えたいと考えております。

本年も、会員の皆様にとって素晴らしいお年になることを祈念して会長の挨拶といたします。

2009年 元旦

## 理事会報告

### ○第2回理事会報告

平成20年10月31日(金)、札幌大学・6号館5階6515会議室にて、日本経営教育学会平成20年度第2回理事会が開催されました。以下、審議の結果を報告します。

#### 1. 全国研究大会の件

第60回大会について、平成21年10月23日(金)～25日(日)に広島大学で開催することが了承された。

#### 2. 産学交流シンポジウムの件

日本経営教育学会産学交流シンポジウムが平成20年12月5日(金)～6日(土)に富山で開催するとの報告があった(本会報巻頭参照)。

また、「山城章先生・生誕百年記念」として平成21年2月に東京で開催する予定で準備を進めているとの報告があった。

#### 3. 会員入退会の件

会員の入退会について、新たに個人会員1名の入会申し込みがあり、承認された。

本理事会承認分を併せて、個人会員803名、法人会員6社となった。

#### 4. その他

(1) 理事会の開催案内は、今後、電子メールで送付することが了承された。

(2) 機関誌委員会より、機関誌『経営教育研究』第12巻第2号(2009年6月発行予定)は、日本経営教育学会30周年記念にかかわる内容を掲載するとの報告があった。

(3) 国際交流委員会より、米国経営学会経営教育部会との報告者交換プログラムにおいて平成21年8月に開催されるシカゴ大会に小川達也氏(東京富士大学)を派遣することを承認したとの報告があり、了承された。

## 平成20年度第2回関西部会報告

関西部会長 高田 雄司(福山大学)

今年度第2回関西部会が、11月22日(土)に大阪府立女性総合センター(ドーンセンター)にて開催されました。総勢22名の参加で大盛況のうちに終了しました。

第1報告 塩見芳則氏(大阪芸術大学短期大学部)「ミドルにおけるキャリアデザインの一考察」

第2報告 水谷覚氏(富山短期大学)「実験会計学における研究方法のモデル構築の意義」

いずれの報告にもフロアから質疑が出され、活発な議論が行われました。終了後、午後5時30分から懇親会が東天紅で開催され、会員の懇親をより深めることができました。

平成21年度第1回部会は、平成21年6月6日(土)に関西大学100周年記念会館で開催する予定です。現在、報告者を募集しております。3名の報告者が揃い次第、募集を締め切らせていただきます。ご希望の方はお早めに、ご氏名、ご所属、ご報告テーマ(仮題でも可)を部会幹事の東大正虎(daito@rcss.kansai-u.ac.jp)までお申し出ください。

**第58回全国研究大会参加記**

池田 玲子（羽衣国際大学）

「企業経営のグッドプラクティスと経営教育—企業経営の正道を求めて—」を統一論題に、札幌大学で開催された。11月1日、大会実行委員会会長小山修先生の開会挨拶、学会会長小椋康宏先生の会長挨拶の後、プレアホールで統一論題報告から開始された。第1報告は、海老澤栄一先生（神奈川大学）による「混沌時代の経営行動を支援、促進する羅針盤—制度化の視点から—」と題する、意欲的・挑戦的な見地が示された。第2報告は長沼昭夫氏（株式会社のとや代表取締役）から、『『スィーツ大国さっぽろ』の確立に挑戦する『きのとや』』と題して、創業から現在に至る実直な会社の経営スタイルと業界代表としての活動が話された。続いて第3報告として「北海道中小企業同友会に結集するベル食品の挑戦と経営教育と経営教育」について福山恵太郎氏（ベル食品株式会社代表取締役社長）からお話いただいた。技術志向の企業経営者として、また、北海道中小企業家同友会教育部会長として、理念（判断基準）に基づく経営と、経営者が地道に率直に学びあうことの重要性が説かれた。第4報告は、小椋康宏先生（東洋大学）による「現代経営者のビジョンとCSR—『新・日本流経営の創造』を手掛かりとして—」であった。21世紀の経営者像として、CSRを包括する高いビジョンを有し、企業価値を最大化する経営機能の遂行者が提案された。韓国経営教育学会からの派遣報告は、「The Practical and Educational Effects of Korea Bookkeeping Method」と題し、灌淳白先生（大邱カトリック大学校）から、民族に伝統的な記帳方法を先に教授することで、簿記導入時教育の負担を軽減できるのではないかという、ご提案をいただいた。特別講演は、石坂裕幸氏（生活共同組合コープさっぽろ理事長補佐）による「食の安全・安心（信頼）の回復に向けて—二つの食を巡る事件を通して（コロッケ・餃子）—」であった。組織（事業体）が有する問題とともに、現代の日本社会が直面している「食」に関する様々な矛盾が指摘・報告された。

11月2日は、自由論題報告（6件）・特定研究プロジェクト・海外派遣報告が3会場に分かれて、いずれも熱心な報告・質疑が行なわれた。午後は、再度プレアホールで統一論題パネルディスカッションが行なわれた。小山修先生による『『食品偽装問題』と食品メーカーの再生への方途—石屋「白い恋人事件の経緯と教訓—」、さらに海老澤栄一先生、小椋康宏先生による問題提起の後、吉村考司先生（明治大学）の司会進行で、指定討論者の平田光弘先生（星城大学）と水尾順一先生（駿河台大学）とが参加のもと、興味深い討論がなされた。組織委員会委員長 加藤茂夫先生（専修大学）に大会閉会のご挨拶をいただき、3日間の充実した大会は閉会した。なお、本大会において特筆すべきは、小山修先生をはじめ、札幌大学の諸先生方・学生院生緒姉兄のあたたかいホスピタリティである。主催校のいきとどいたご配慮に、心よりお礼申し上げたい。

## 第58回全国研究大会工場見学記

### 北海道のグローバル企業、ダイナックス社を見学して

児玉 敏一（札幌学院大学）

日本経営教育学会第58回全国大会の第1日目は株式会社ダイナックス社本社工場（千歳）の見学から始まりました。同社は、自動車部品・トランスミッション部材で世界シェア40%を占める北海道のグローバル企業です。学会役員を中心とする私たち20数名は、まず、同社の島津氏から企業概要についてのレクチャーを受け、その後工場内を視察させていただきました。当日は経団連の会長も視察に来るとのことで全工場を見学することができませんでしたが、社員の方々の丁寧な説明を受けながらの見学は大変興味深いものでした。

同社は、大手メーカーが手がけない湿式摩擦材にターゲットを絞り込む「ニッチ戦略」、安価で豊富な労働力・土地などの「地域環境の効果的な活用」、国内外の大学との技術提携を活用した「積極的な研究・開発」、などによって成長を続けてきた北海道を代表する中小企業の一つですが、独自の企業内託児施設を有していることでも注目されています。同社の敷地内にある企業内託児施設「子供クラブ」は、専従の調理師、栄養士のほか2名の保母さんを置き、同社の従業員（パート・派遣者員を含む）だけでなく同社がある工業団地内の他社の従業員の子供たち（生後6ヶ月からの入学前の子供）にも開放されているところに特徴があります。これによって地域の従業員が安心して働くことができるとのことでした。利益ばかりを優先する企業が多く見受けられる今日、地域への貢献と従業員を大切にするダイナックス社の姿勢には、心強さを感じました。

## 平成20年度第1回中部部会報告

草田 清章（愛知産業大学短期大学）

平成20年度第1回中部部会が、11月8日（土）13時30分より、中部大学名古屋キャンパスで26名の参加者を得て開催された。

第1報告は、渡辺伊津子氏（朝日大学）による「アパレル企業の戦略形成—インタビュー調査をベースにして—」。コメンテーターは、芝隆史氏（愛知学院大学）であった。渡辺氏の報告は、従来型モノづくりのアプローチにおける問題点と課題を明らかにし、アパレル企業への戦略的な提言を行うことを目的とするものであった。

第2報告は、石井泰幸氏（愛知産業大学）による「ITと経営教育—ITスキルと経営能力との関係性について—」。コメンテーターは、辻村宏和氏（中部大学）であった。石井氏の報告は、ITと経営を融合するITにおける経営教育の可能性を検討するものであった。

また、第3報告は、谷保範氏（愛知学院大学）による「競争優位における情報の意義」。コメンテーターは、堀田友三郎氏（東海学園大学）であった。谷氏の報告は、情報が競争優位にどのような機能を果たしているのかを検討するものであった。

それぞれの報告終了後には活発な質疑応答がなされた。引き続き、辻村部会長を議長として、次回開催校および第59回全国大会などの連絡がなされた。

報告会終了後、多数の参加者のもと懇親会が盛大に行われ、和やかな雰囲気の中会員間の交流が深められた。

## 第12回産学交流シンポジウム報告

河野 篤（中部学院大学）

平成20年12月5日（金）・6日（土）の二日間にわたり、「地域企業の人材創造：ビジョンと実践」との主題のもとに、第12回産学交流シンポジウム・イン・富山が開催された。

第1日目は、独自技術を駆使して電子部品や精密機械部品等を製造販売し、グローバルな事業展開を図っている立山科学工業㈱を視察した。同社の「品質は生命」とのビジョンに裏打ちされた超小型チップ抵抗器の自動組立ライン、最新技術を結集した360度全方位レンズの実用化、高精度センサーシステムを内蔵した高齢者用24時間緊急通報機器の開発・製品化プロセス等を直接目にしたことにより、地域企業の先端技術の開発とその実際を体得することができ、きわめて有意義な企業視察であった。

また、第2日目は、富山電気ビルをメイン会場として、上記の主題に沿ったシンポジウムが開催された。小椋康宏会長の開会挨拶を皮切りに、辻村宏和中部部会長のコーディネートのもとに、討論者3名（北陸電力㈱人事労務部部長・中島尚夫氏、㈱スギノマシン執行役・企画部長・宮尾宗嗣氏、立山科学工業㈱取締役・高村元二氏）による自社のビジョン主導の人材創造の現況および課題についての概要講演の後、辻村氏による質疑応答が展開された。

まず、コーディネーターによる討論者への質疑事項として、大学生の学力のレベルダウン問題をはじめ、社内カンパニー制導入の有効性とその人材育成上の貢献度、経済・経営系学生に見られる期待値、業務推進上での優秀な人材の大学格差存在問題等々、多様な質疑が提起され、各討論者からの自社の経営ビジョンとこれに基づく実態に即した回答が寄せられるとともに、フロア参加者からは業界での学生人気度低下の原因や企業不祥事発生に対する倫理上の対応策等の質疑事項が提示され、各討論者から真摯な回答とその解決策が行われ、白熱した議論が交わされた。

シンポジウム後に設けられた懇親会は、直前までのシンポジウムでの議論の熱気と余韻を残しつつ、参加者相互の情報交換および相互親睦を一層深める場となった。富山県内でのエクセレント・カンパニーの存在意義を十分認識することができ、きわめて有益なシンポジウムであった。

## 機関誌投稿論文募集

機関誌委員長 森川 信男（青山学院大学）

2009年1月末日締め切りで、機関誌『経営教育研究』第12巻第2号（2009年6月発行予定）への投稿論文を募集しています。会員の皆様の積極的なご投稿をお待ちしております。なお、本号は「日本経営教育学会創立30周年記念号」となりますので、どうぞ奮ってご投稿のほどよろしくお願い申し上げます。

## 山城章先生・生誕百年記念「産学交流シンポジウム」のご案内

日本経営教育学会 会長 小椋 康宏  
山城経営研究所 代表 西田 芳克

この度、日本経営学の泰斗として世界に通用する“日本経営学”の確立に情熱を注がれた故山城章先生の生誕百年を記念して、「産学交流シンポジウム」を企画いたしました。

一橋大学をはじめ各大学におけるゼミナールの他、山城先生が“実・学一体による経営教育の実践的研究”を理念に興された日本経営教育学会は30年、また実業界のプロ経営者を育成すべく開講された経営道フォーラムも22年を経て、数多くの優れた経営学者やプロ経営者を輩出しております。

これ等の皆様と共に、“日本のドラッカー”とも称された山城先生を偲びつつそれぞれの分野での今後を展望すべく、下記のとおり「産学交流シンポジウム」を開催させていただく次第でございます。

年初何かとお忙しいこととは存じますが、予めご日程を確保いただきまして、多数の皆様がご参加くださいますよう、ご案内申し上げます。

### 記

1. 名 称：山城章先生・生誕百年記念「産学交流シンポジウム」
2. 開催日時：2009年2月19日(木) 15:00～19:30(最終)
3. プログラム：ご挨拶 日本経営教育学会・会長 小椋康宏氏 15:00～15:05  
 第1部 <基調講演> 15:05～16:05  
 パナソニック株式会社・代表取締役副社長 北代耿士氏  
 第2部 <パネルディスカッション> 16:30～18:00  
 日本経営教育学会・会長 小椋 康宏氏  
 企業研究会・会長 花房 正義氏  
 山城経営研究所・会長 八尾俊八郎氏  
 山城会・代表 (交渉中)  
 第3部 <立食懇親会> 18:00～19:30
4. 参加費：第3部ご参加者のみ 3,000円(懇親会費)
5. 会場：昭和女子大学(〒154-8533 東京都世田谷区太子堂1-7  
 TEL: 03-3411-5123(学園本部総務))  
 ①第1部・第2部会場 学園本部館3F大会議室  
 ②第3部会場 学園本部館3F中会議室
6. 参加者：日本経営教育学会会員、経営道フォーラム受講生・修了生、各大学山城会他
7. 申し込み・連絡先：株式会社山城経営研究所  
 ・所在地 〒102-0072 東京都千代田区飯田橋4-8-4  
 ・電話番号 03-3264-2100  
 ・電子メール horikoshi@kae-yamashiro.co.jp 担当：堀越 勝

## 国際委員会報告

国際委員会委員長 吉田 優治（千葉商科大学）

2009年度のアメリカ経営学会年次大会（イリノイ州シカゴ、8月）への派遣報告者は、国際委員会および理事会の議を経て小川達也氏（東京富士大学）に決定しました。

報告論題は、“The Possibility of Overcoming Corporate Scandals by Negative Organizational Learning and the Issue of Management Education”です。小川氏の報告を中心にアメリカ側から複数の討論者が参加するシンポジウム形式で行われる予定です。

### ◇◇九州部会開催のご案内◇◇

九州部会では、平成20年度第2回部会開催を下記のとおり、予定いたしております。

●日 時：平成21年3月7日（土）

●場 所：福原学園天神サテライトキャンパス（イムズ5階）

詳細は下記のURLをご覧ください。

<http://www.fukuhara-gakuen.jp/news/080917.html>

#### ●報告プログラム

開会の挨拶

第1セッション（報告20分＋質疑応答10分、計30分）

第1報告：14:00-14:30 瀬戸 正則氏（広島大学・大学院生） 未定

第2報告：14:30-15:00 赤羽根 和恵氏（日本女子大学・大学院生）

「ペット関連市場に見る 企業の社会的責任」

第3報告：15:00-15:30 王 琳氏（広島大学・大学院生）

「中国の企業内訓練について（仮）」

休 憩：15:30-15:40

第2セッション（報告30分＋質疑応答10分、計40分）

第4報告：15:40-16:20 細野 賢治氏（九州共立大学）

「ミカン共販組織における個別農家に対する生産・出荷指導に関する一考察—JAありたミカン共販組織を事例として—」

第5報告：16:20-17:00 石毛 昭憲氏（拓殖大学） 未定

閉会の挨拶

懇親会：17:30～19:30 研究会会場の近隣の予定

●参加費：5,500円、懇親会費：3,500円（当日会場にて現金でお支払ください）

●問合せ先：九州部会副部長・篠原 淳（shinohara@bird.ocn.ne.jp）

## ◇◇中部部会開催のご案内◇◇

中部部会では、第39回部会開催を下記のとおり、予定いたしております。

●日 時：平成21年3月21日(土) 13:30~17:00

●場 所：中部大学名古屋キャンパス ※開催校が変更されました

交通：名古屋市中区千代田5-14-22

J R中央本線「鶴舞」駅名大病院口(北口)下車すぐ

地下鉄「鶴舞」駅下車北へ約100m

※駐車場はありません。公共交通機関をご利用ください。

## ●報告プログラム

第1報告：速水智子氏(中京大学大学院)「社会起業家の育成は、起業家が行うのが良いのか—起業支援の事例からの考察—」

第2報告：檜田智子氏(広島経済大学)・杉浦裕晃氏(青森公立大学)「消費者教育の必要性に関する—考察—情緒性を手掛りに—」

第3報告：亀倉正彦氏(名古屋商科大学)「主体性とコミュニケーション力の育成に関する—試論—今年度の『社会人基礎力育成講座』の実践をふまえて—」

●参加費：500円

●問合せ：中部部会長・辻村宏和(tsjimura@smile.ocn.ne.jp)

平成21年度第1回中部部会は、平成21年11月7日(土)中部大学にて開催の予定です。中部部会事務局では随時報告募集を行っております。報告を希望される方は、事務局・草田清章(愛知産業大学名古屋サテライト 名古屋市熱田区金山1-6-9 TEL:052-683-0021 e-mail:kusada@asu.ac.jp <mailto:kusada@asu.ac.jp>)までお知らせください。

## 本欄~会員の最新刊著書を紹介します~

◎梅澤 正『職業とは何か』 講談社現代新書 2008年8月 735円(税込)

◎濱田 眞樹人『US CPA集中講義—ビジネス環境および諸概念〈第3版〉』  
中央経済社 2008年12月 3,360円(税込)

機関誌投稿論文、日本経営教育学会山城賞および山城賞奨励賞、アメリカ経営学会経営教育部会への派遣報告者、韓国経営教育学会への派遣報告者のお申し込みやお問い合わせは、下記までお願いいたします。

日本経営教育学会事務局(担当:魚住 良三)

〒102-0072 東京都千代田区飯田橋4-8-4 (株)山城経営研究所内

TEL:03-3264-2100 FAX:03-3234-9988 name@kae-yamashiro.co.jp

## 編集後記

会報255号をお届けします。日本経営教育学会は、本年6月に創立30周年を迎えます。学会のさらなる発展をめざして、研究活動を核に会員相互の交流を深めていきましょう。

樋口弘夫・杉田あけみ

発行 日本経営教育学会

〒102-0072 東京都千代田区飯田橋4-8-4  
株式会社山城経営研究所(担当:魚住)  
TEL 03-3264-2100 FAX 03-3234-9988  
E-mail:name@kae-yamashiro.co.jp  
URL:http://www.j-keiikyoiku.jp/

印刷 (株)フジヤマ印刷 〒03-3260-3801  
E-mail:fujiyama@mx7.ttcn.ne.jp